

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度 技術情報第5号(サツマイモのヨツモンカメノコハムシ、ヒルガオハモグリガ)について (送付)

下記のとおり取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いたします。
なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosho/>) にも掲載しています。



令和6年度 技術情報第5号

サツマイモほ場の達観調査(4月30日～5月1日, 79ほ場)で、ヨツモンカメノコハムシ及びヒルガオハモグリガの定植苗での被害が認められている。今年は気温が高いことから、両種の発生が早まっており、被害の拡大が懸念される。両種とも定植苗の被害を防止することが重要であることことから、ほ場を見回り、防除時期を逸しないように注意する。

- 1 対象病害虫 ヨツモンカメノコハムシ, ヒルガオハモグリガ
- 2 対象作物 サツマイモ
- 3 予報内容
(1) 発生地域 県本土
(2) 発生時期 早い

4 発生状況と防除対策

・ヨツモンカメノコハムシ

- (1) 多くの調査ほ場で、ヨツモンカメノコハムシの発生が確認された。また、ほ場に定植された苗の一部で、図1のような被害を呈するほ場も散見される。
- (2) 生育初期に激しい被害を受けると、その後の生育が遅延するため、発生が多いほ場では防除を早急に行う。



図1 サツマイモ定植苗でのヨツモンカメノコハムシの成虫(左)と被害(右)状況
(令和6年4月30日撮影)

・ヒルガオハモグリガ

- (1) 一部の調査ほ場において、図2のような被害が認められている。今後、世代が進むとともに、被害が激しくなることもある。
- (2) 本種の幼虫は、葉内を潜孔して加害するため、薬剤が到達しにくい。また、多発すると幼虫の出す糸が葉上を覆うので、防除時期が遅れると薬剤での防除が困難となる。
- (3) また、本種は苗に寄生し、本ほに移動することが多い。育苗床で被害が見られた苗を使用したほ場では、今後の発生に注意する。



図2 ヒルガオハモグリガの被害葉（左：葉表，右：葉裏）

5 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤散布を行う場合は、周囲の茶園等にドリフトしないように注意する。